

Antimicrobial Copper

Cu⁺

TM

Antimicrobial Copperは、
医療関連団体向けの抗菌
ニュースレターである。

2月号
2012年No. 1

ドナルド・マクドナルド・ハウ ス、改装して抗菌仕様に



米国チャールストン市のドナルド・マクドナルド・ハウス(世界中で活動を展開する「ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ」*)が、大規模改装工事に際してAntimicrobial Copper (Cu+)を採用、短期滞在型施設としては国内初の試みとなる。

同ハウスでは、人が触れることの多い階段の手すり、流し、水栓、テーブル、戸棚の取っ手および椅子の肘掛けにスチール、木、プラスチックが使われていたが、改装でCu+**の銅系金属(黄銅、青銅等)製のものに入れ替えた。

この改修は、サウスカロライナ医科大学が実施している研究の対象でもある。これは、入れ替え前にスチール、木、プラスチックの表面上の細菌数を計測しておき、材質を銅に代えてその効果を検証する研究で、結果は今年中に公表するとしている。

ハウスを利用する子どもたちには特に健康上の配慮が求められるため、その対策として取った措置だと、同ハウスのバーバラ・ボンド専務理事はいう。

2月16日、改修後のオープンに際し「銅の抗菌性が証明されているということで、ドナルド・マクドナルド・ハウスとして真っ先に試してみよう

ドナルド・マクドナルド・ハウスについて

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ(RMHC)は、病気の子供とその家族を支えるため、治療を受ける際に無料で宿泊施設等の支援を提供する団体である。最大の支援企業はマクドナルド社であり、37年の歴史とアジア・太平洋地域を含む54カ国での実績がある。

詳細は<http://rmhc.org/>

In this Issue

ドナルド・マクドナルド・ハウス、改装して抗菌仕様に P.1

韓国、Cu+の医療機器の発売開始 P.2

インドの政府機関、銅を支持 P.2

Cu+の伝播 P.3

Cu+製品のワンストップ・ショップ P.3

今度のMSRAは市中感染型 P.4

(次頁に続く)

韓国、Cu+の医療機器の発売開始

Young Dong Medical Equipment社(本社:ソウル)、医療分野では韓国初のAntimicrobial Copper製品を発売開始

韓国最大の医療機器展示会である韓国国際医療機器展示会2012 (KIMES 2012)において発売開始が発表された。

第一弾として銅合金製の医療ベッド、処置用カート、洗濯物入れ、点滴スタンドを販売する(詳細なカタログあり)。展示会に合わせて開催したセミナーでは、ソウル峨山病院が実施した抗菌銅に関する実験室試験の結果が報告された。

問い合わせ先: chris.lee@copper.or.kr

インドの政府機関、銅を支持

インド、ニューデリーで保健省関連機関が医療機関に対して感染予防として銅の活用を呼びかけ

この呼びかけは、中央医療施設設計局(Central Design Bureau for Medical and Health Buildings)の主任設計技師R Chandrashekar博士が、ニューデリーで最近開催された全インド医科学研究所の大会で行ったものである。

同博士はTimes of India紙に対して次のように話した。「インドでは院内感染の発生率が高く、国の正式なデータはないが、最も高い地域では21.9%に及ぶことが最近の研究で明らかにされている」

「手洗い等、一定の基準を義務化するか、院内環境対策を取ることで、院内感染を減らすことは可能だ。病院、抗レトロウイルス治療センター、血液バンク等で抗菌銅を活用するよう勧告した。メンテナンスもほとんど必要なく、価格も高くない」

Chandrashekar博士は、抗生物質の過剰使用を避け、抗菌性表面素材を活用する傾向が強まっており、これに関する世界各地の研究をフォローしてきたという。「抗生物質を過剰投与し、抗生物質に対する耐性をつけさせてはならない、安全な院内環境をつりなさい、というのが私の口癖だ」

問い合わせ先: Savita Gupta (savita_gupta@icpci.org)

(一面より続く)

思っていた。この研究が、公衆衛生分野で抗菌銅が普及する一つのきっかけになればと思う」と語った。

同ハウスの利用者がネット上によせたコメントを見る限り、今回の光り輝く新装改修はすでに成功といえるのではないかと。YouTubeでの感想をご覧ください。
<http://www.youtube.com/watch?v=yanPQRnjqMM>

**Cu+はAntimicrobial Copperの世界的な登録商標。詳細は
<http://www.antimicrobialcopper.com/uk/why-antimicrobial-copper/about-the-brand.aspx>



Antimicrobial
Copper



Cu+の伝播

院内感染対策にAntimicrobial Copper (Cu+) が有効であることを広める「菌よ、さようなら (CU (See you) Bacteria)」キャンペーンが、世界規模で開始された。

このキャンペーンは、利用者の多いソーシャルメディアのサイト上で展開されている。政府・行政関係者や医療従事者がこの問題について議論する場を提供することを目的としており、院内感染対策の効果を高めるオンライン・ネットワークの立ち上げも視野に入れている。

次に示す4つのソーシャルメディアサイトがキャンペーンの拠点となる:

- Twitter (@AntimicrobialCu) オンラインの記事、画像、コメント、見解等をフォローにデイリーフィードで提供。
- Facebook (www.facebook.com/CUBacteria) Antimicrobial Copperについて、フォロワーが議論し、意見を表明し、コメントを残し、情報を得ることができる「共有スペース」を提供。
- YouTube 医療機関が日ごろ直面する院内感染問題を説明する映像を提供。
- LinkedIn 医療従事者が寄り集まってAntimicrobial Copperについて話し合うグループがある。

日本でもYouTube (<http://www.youtube.com/user/COPPERJAPAN>) 等のソーシャルメディアサイトの活用が始まっており、Facebookの活用もまもなく開始される。注目を集めているものとして、東京のある保育園での取り組みがある。同園ではAntimicrobial Copperの表面素材を園全体に導入し、表面の細菌負荷と子供の健康についてモニタリングを実施中である。

Twitterでは地域ごとのポストをフォローできる(米国は#coppertalk、アジア太平洋地域は#copperlife)。

Cu+製品のワンストップ・ショップ

Antimicrobial Copper (Cu+) 製品のメーカーが世界中で急増しているが、心配は無用。世界のどこからでもインターネットを通じて調達が可能なのだから。

Cu+製品の開発においては、これまで英国と米国がけん引しているが、アジア太平洋地域でもCu+ブランドに参加する企業が相次いでいる。最近の例では、台湾の精國醫療器材有限公司が世界初のCu+汎用聴診器を開発した。英国のPegler Yorkshireは国内では初めて、医療従事者、患者、在宅ケア利用者を対象にした単水栓および混合栓にCu+ブランドを採用している。

これ以外にも、数百というメーカーが、医療、運輸、保育、高齢者ケアの分野を対象に、Cu+ブランドの製品、半製品を製造している。具体的な製品は、ベンチや壁に用いる多種多様の銅板・銅合金板はもちろんのこと、照明器具のスイッチ、ベッド柵、水栓、ドアハンドル、シャワーヘッド、戸棚、階段の手すり、銅製の筆記具にまで及んでいる。

だが心配は無用だ。

<http://www.antimicrobialcopper.com/uk/find-products-and-partners/find-antimicrobial-copper-products.aspx>にアクセスすれば、世界中に散らばるCu+ブランド製品のメーカーとその製品の連絡先が簡単に調べることができるのだから。



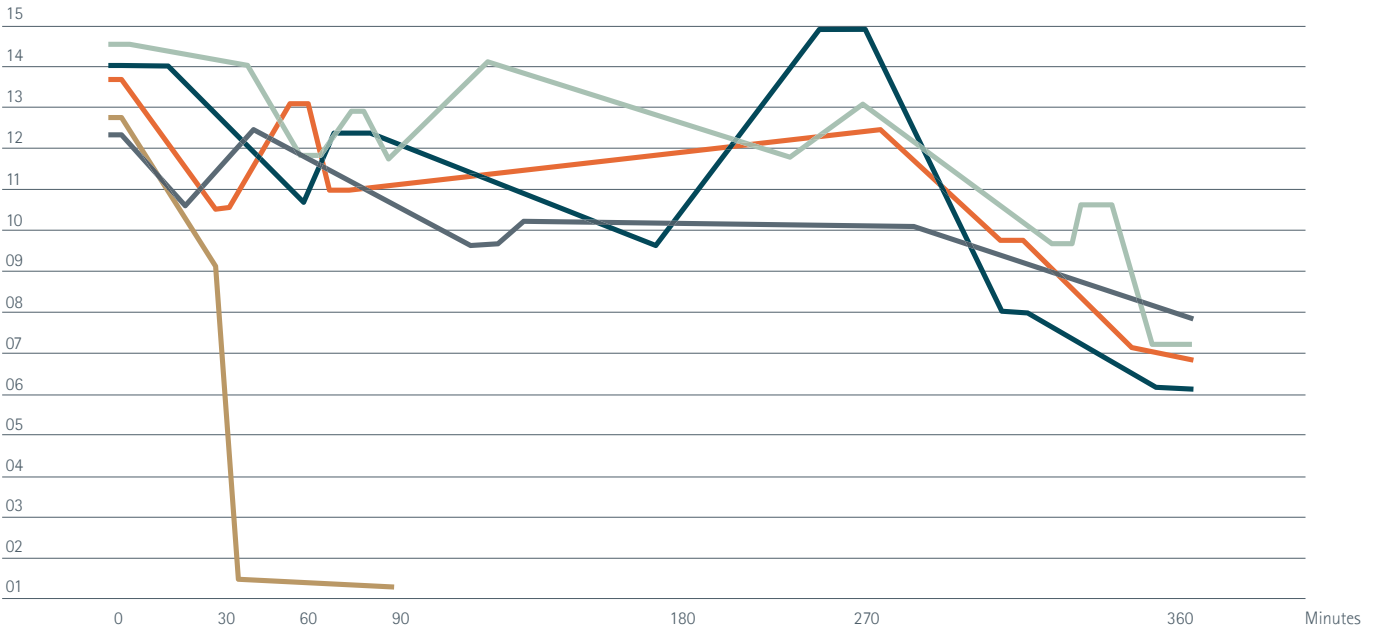
Antimicrobial
Copper



Antimicrobial effectiveness under typical indoor conditions

CFU (Colony Forming Units) of MRSA

Millions



今度のMSRAは 市中感染型

皮膚接触で感染しやすく、最先端の抗生物質の一部にも耐性を獲得した、USA300と呼ばれる極めて有害なMSRAの市中感染事例が米国と英国で報告されている。USA300のようなMSRAの変異株はPVL陽性市中感染型MRSAとも呼ばれ、院内の患者よりも

若者や健康な人に感染しやすい。環境表面にも発見されていることから、両国の当局者は混雑した公共交通機関での感染があらゆるとして警戒を強めている。

昨年イングランドで発見されたPVL陽性市中感染型MRSAの感染例は1,000件あるが、そのうち200がUSA300であった。米国ではこれよりも多いと考えられている。しかし、MSRAが銅表面上で容易に死滅することは、様々な実験室試験、院内試験で証明されている。

www.antimicrobialcopper.com

Antimicrobial
Copper



本ニュースアラートは、アジア銅センターが、International Copper Association社の50周年(1959-2009)を記念し、同社と提携し配布するものである。

国際銅業協会
International Copper Association Ltd.
260 Madison Avenue 16th Floor New York,
NY 10016-2401
www.copperinfo.org

アジア広報課涉外係

Australia & Oceania Contact Mr. John Fennell, jffennell@copperdev.com
China Contact Ms. Flora Fu, florafu@copper.org.cn
India Contact Ms. Savita Gupta, savita_gupta@icpci.org
Japan Contact Mr. Masahiko Wada, mswada@jcda.or.jp
South Korea Contact Mr. Chris Lee, chris.lee@copper.or.kr
Southeast Asia Contact Ms. Mun Wun Ee, wunee.mun@copper.org.sg
Taiwan Contact Mr. Charles Lee, charles.lee@copper.org.sg

銅は、動植物が生命を維持するために不可欠な無機性栄養素である必須元素とされている。銅はまた、半貴金属とみなされている。

銅、黄銅、および青銅は、院内および地域感染の原因となる「スーパーバグ」MRSAなどの病原菌を殺菌する。

米国環境保護庁(EPA)は、抗菌銅合金を、公衆衛生効果を持つ材料として登録することを認めた。

この登録は、銅、黄銅、および青銅が有害致死バクテリアを殺菌する有効性を認めるものである。銅はEPAによって初めて登録されたこの種の固体表面材料であり、その効果は大規模な抗菌効果テストによって実証されている。